

事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 6年 3月 31日

公表:令和 6年 4月 1日

施設名 児童発達支援室 きらら

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である		5	個別で落ち着いて活動できるスペースの余裕がない。	パーティション等で工夫して個別のスペースを作るようにする。
	2	職員の配置数は適切である	5			
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5		限られた空間の中で、過ごしやすい様工夫している。また必要に応じて使えるよう、トイレにもお湯が出るように改善した。	利用者や保護者のニーズに応える努力をしていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5		古い建物ではあるが、気にして気を付けている。	床にフロアクッションを敷いたり、排泄処理の温水洗い場を新たに付けた。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5		終礼や職員会議で報告や反省し、話し合いを行っている。	職員同士で業務改善について、日常的に話し合っているため、今後も気軽に話せる関係を作っていきたい。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5		公開している	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5		公開している	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		5		第三者による外部評価を行っていききたい。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5		研修計画を作成している。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5		年間行事予定で懇談会のお知らせをし、保護者にも時間を確保してもらっている。	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5		発達検査を年2回行っている。	検査結果を分かりやすいよう、グラフ化している。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」、「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5		発達支援が主になっている。	報酬改定に合わせて、支援計画の様式を変更し、項目を適切に入れるようにした。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5		すぐに確認できるよう、記録ファイルにも挟んでいる	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	5			
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	1		一人ひとりに合った個別課題が取り組めるよう、計画を立てていっている。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	5		子どもの様子により、集団を分ける事もしている。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5		終礼時に確認している。	支援の内容等、当日朝にも確認できるよう、終礼ファイルに記入していく。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5		終礼時に確認している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5		保護者との連絡帳を毎回記入し、複写を記録として残している。	
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5		6か月に1回以上ずつ、必ず行っている。		

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5		児童発達支援管理責任者と担当保育士で参加するようにしている。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4	1	事業所会議などで顔見知りになり、連携を取っている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			医療的ケア児の利用者は現在受け入れていない。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5		定期的に併用先へ行き、情報交換を行っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5		保護者を通して就学先の学校へ情報提供を行うようにしている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5		豊川市の主催の研修に参加している。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4	1	コロナ禍も落ち着いてきて少しずつ保育園での行事に参加できるようになった。	劇と一緒に見る事はあったが、交流まで入っていないので、今後考えていきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	4	どう参加しているか分からない。	事業所の共有会議で情報提供を受けている。何か協力できることがあれば参加していきたい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5		送り迎えの時に保護者との話をしたり、連絡帳にて伝えあっている。	
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	5		コロナ禍も落ち着いてきたので、保護者が参加できる茶話会を開催した。	保護者も一緒に受けられるZOOM研修や講演会を計画していきたい。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5		変更がある場合はおたよりで知らせている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5		時間を作ってもらい、懇談会を年に2回行っている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5		懇談会以外でも、いつでも受け入れられるよう態勢を整えている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	1	保護者通しの交流の場を増やした。	父母の会の活動は行われていない。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5		毎月おたよりを出している。	LINE-WORKSを導入したことで、スマホからもおたよりをチェックできるようにした。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	5		気を付けていたが連絡ノート等の入れ違いをしてしまった。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5		子どもに任せたままで、忘れてたり入れ違いがあった。最終確認が必ずいる。	保護者にも実物を見せたりしてわかりやすく伝えている。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	3	事業所単独ではない	同法人内での行事に参加することもできる。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4	1	感染症について保護者にも協力してもらえようにもっと伝えておけばよかった。	細かい想定や違う状況を考える事を職員全員で行う必要がある。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5			
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4	1		
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	2	対応児がいない	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5			
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5			

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。